

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

肝細胞癌術後再発に対する治療選択における
サルコペニアの意義についての研究

1. 対象となる患者さん

2007年1月1日～2020年12月31日の間に当院で肝細胞癌再発と診断された患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 松尾 泰子

3. 研究の目的と意義

肝細胞癌術後再発に対する治療方針は、初回治療に準ずるとされています。肝内再発が単発あるいは3cm3個以下の場合は手術・焼灼療法の適応です。しかし再肝切除の困難性、肝機能、併存症、全身状態など様々な理由から、手術・焼灼療法を行わずに肝動脈化学塞栓術を行う場合があります。その治療選択の指標は明らかではありません。一方、サルコペニアは全身の筋肉量と筋力が減少し身体機能が低下した状態のことであり、サルコペニアは肝細胞癌術後の予後因子との報告があります。今回、肝細胞癌術後再発に対する予後因子としてのサルコペニアの重要性について検討し、サルコペニアが治療法選択の指標となりうるか検討を行います。さらに、切除標本を用いて腫瘍浸潤リンパ球の腫瘍内での発現を検討し、それらとサルコペニアとの関連を明らかにします。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、肝細胞癌術後再発に対する予後因子としてのサルコペニアの重要性について検討します。

5. 使用する情報

- ①臨床所見(年齢、性別、身長、体重、既往歴、腫瘍径、腫瘍個数、術式、無再発生存期間、全生存期間)
- ②血液検査所見(肝機能検査:血清ビリルビン値、アルブミン値、AST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)値、ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)値、PT(プロトロンビン)%値、ICG(インドシアニングリン)15分値、腫瘍マーカー:AFP,PIVKA-II)
- ③病理学的所見(切除標本のパラフィンブロックよりCD4・CD8・CD45ROなど腫瘍浸潤リンパ球について免疫染色を行います。)

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

2023年1月23日～2028年12月31日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 松尾 泰子

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：yasuko-tsuji@naramed-u.ac.jp